

# NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR  
PARAPSYCHOLOGY

DECEMBER

No. 19

## 日本超心理学会 第12回大会の開催

これまでお知らせしてまいりましたように、来る12月22日(土)と23日(日)の両日、今年度の大会を開催します。沢山の方々の参加を希望致します。また超心理学に関心をもちの方をお誘い下さい。多くの方々が準備金の申請書をいただくといいと思います。行幸の内容について概要をお知らせします。

22日(土)午会: 個人研究発表 内容: 萩尾・黒田西氏により、学生に対し行ったESPテストの得点と被験者の性格特性との関係についての報告が行われます。大谷氏の発表は、最近注目されている生体リズム、体内時計の問題に関連し、ESPの circadian rhythms に関する実験的研究です。大申氏の発表は、コンピュータを用いた実験の標準についてです。厚木の psi 研究におけるコンピュータの役割について示唆が得られると思います。望泉氏の研究は、SRI の Pathoff 氏が行った ESP テストの一般化、agent が遠く離れた場所で見ている光景を被験者に当てさせる ESP 実験での新しい試みです。長嶋氏の研究は、同氏の一連の ESP と生理的機能の関係についての研究の一環をなすもので、ESP における薬物の効果を測るにその目的です。黒田氏の発表は、同氏の専攻である創造性の問題と ESP との関係論じること、従来のものを発展させることです。金沢氏の発表は、同氏長年におよぶ psi の理論についてその後の発展を紹介することです。psi の理論的研究は実験的研究と共に強力を進めるべきであり、同氏に続く理論研究家の出現が望まれます。大谷氏の発表は、偶発的 psi 体験が、日常生活の中でどの様な条件の下で行われているかを明らかにする目的で行う調査の予備調査の結果に関するものです。

23日(日)午前シンポジウム: Survival, re-incarnation は超心理学での面白い問題です。超心理学は Rhine 以来実験的事実をもとに、科学的基礎を築いてまいりましたが、近年死に行くと人の見聞 vision の調査、また再生レベという例の調査などが行われるよう

になりまして、方法論的にも理論的にも非常に難しい問題を含んでおりますが、今回は、この領域などの様な研究をやっていくかをとり、我々として将来の方向性を如何に扱っていくかを討論したいと思っております。講師の金沢氏は OBE, reincarnation などに興味が多く、長嶋氏は老人性精神病患者の死についての観察を多く発表されたので、望泉氏は K. Osis と E. Haraldsson の著 At The Hour of Death 1977 の訳者です。

午後は、心理学者天明先生に問題を提起していただく討論を行います。同氏は脳波を用いた ESP 研究を創出して知られるが、その研究の発展として、脳の働きを制御する存在を仮定してあります。最近、神経生理学者の片野とその様な考え方を発表している人が居り、我々の研究にも大いに刺激を受ける所が多いと思っております。活発な討論が期待されます。

午後は、シンポジウムには大阪PL病院の中川俊二先生が講師としてお話し下さり、同氏は、ガン患者の死後に関する、その死をも含めた心身医学的研究を深められる方です。

## 学会ニュース

第12回月例研究会は、1979年11月18日(月) 1000~1430の間、学芸会館本館にて開催。出席者 金沢元基、望泉敏雄、大申正道、大谷幸司の4名、大谷氏による大会準備の経過報告、細部の打合せ、プログラムの決定が行われました。続いて望泉氏による Handbook of Parapsychology の新訳が行われました。

## お知らせ

12月月例研究会は、休会と致します。

NEWSLETTER No. 19 1979年11月30日発行 価額200円  
編集発行: 日本超心理学会

海外 ニュース

第3回International SPR Conference: 本年4月2日より4日までの3日間、Edinburgh, Scotland に於て第3回国際SPR会議が開催されました。中米知のように、8月2年設主として超心理学の最もよい研究組織で、長らくヨーロッパの研究の中心的役割を果してまいりました。ヨーロッパ全体の研究者の情報の交換相互交流は組織的には行われてまいりませんでした。近年この方向への気運が高まり、今年も第3回の大会の前から忙しです。"Parapsychology Review" Vol. 10, No. 5 に紹介された S. Blackmore の報告によれば、教員兼では、少数の孤立した研究者が個々に研究を行って互に会うことにはなかつた。この会議を通じて知り合うようになる。また "European Journal of Parapsychology" の発行もあり、彼等は大いに力づけられるようになる。と述べています。今年度の同会議について、Blackmore の記事によって大要をお伝えします。

会議の第1日は実験的研究の発表、第2日は実験的理論的研究の発表、第3日は主に自然発生的な事例についての研究発表が行われました。そして第1日の夜には宴会が行われました。研究発表の数は24、英国、デンマーク、西ドイツ、オランダ、フランス、ユーゴスラビア、米国の研究者が参加した。

ESPに関する研究では、子供を被験者とした実験 (H. Hangan, Edinburghの学生) 記憶とESPとの関係についての実験-有意の結果が得られたこと (S. Blackmore, Univ. of Surrey, Englandの博士課程生) 実験的効果についての考察 (Spimeli, Millar) repeatability, significance の語意の考察 (C. Sargent, Cambridge Univ.), ganzfeldを用いた実験-有意の結果 (Harley, Sargent, Cambridge), subliminal perception と ESP (S.R. Dougall, City Univ. of London), defenso mechanism test と ESP (M. Johnson, Utrecht), long distance drawing experiment - position effect (Thalbourne, Edinburghの学生) など発表された。

PK研究では、"heart of Tut" (一種のT-4) を用いた実験-chance result - (R. Broughton, Utrecht) ネズミを用いた conformance behavior の研究 (E. Gruber, Freiburg) PKの良い被験者を見出す mass screening technique の研究 (J. Tsacis), young metal benders についての研究 (J. Hasted, D. Robertson, Birkbeck College, London) など発表された。隣接領域としては、dermo-optic perception について (K. Claudemity, Denmark), Kirlian photography について (K. Cirjanic 他, Yugoslavia), vision of treasure trove の研究 (J. McHarg, Univ. of Dundee), haunting, poltergeist について (A. Mac. Kenzie) Iceland の psychic についての研究 (E. Haraldsson, Iceland) などあり、その他 Katie King を扱った歴史的研究 (G. Zorab, Holland) trance ~~trance~~ <sup>medium</sup> についてのEEG研究 (Heseltine 他, Texas) 理論的研究として、A. Roy (Glasgow Univ.), G. Wasserman (Univ. of Newcastle), T. Beloff (Edinburgh Univ.) などによって発表が行われた。

以上のように色々テーマで研究発表が行われていくことは興味深い。報告者の Blackmore は、今回はOBEや, dying, death-bed experience, survival についての発表はなかつたが、之等は忘れられぬのでは無い、と述べている。